

新たに登録されることになる文化財一覧

No.	名称	所在の場所	構造形式	建設年代／改修年代	登録基準
1	高野山高等学校講堂（こうやさんこうとうがっこうこうどう）	伊都郡高野町大字高野山字谷上 183-1 他	木造平屋建、鉄板葺	昭和 11 年（1936）／昭和 49 年（1974）改修・同 53 年（1978）頃移築	一
2	高野山高等学校校門（こうやさんこうとうがっこうこうもん）	伊都郡高野町大字高野山字谷上 207	鉄筋コンクリート造	昭和 12 年（1937）	一
3	宝城院本堂及び護摩堂（ほうじょういんほんどうおよびごまどう）	伊都郡高野町大字高野山 156	木造平屋建、銅板葺	江戸後期／昭和 40 年（1965）頃増築	二
4	宝城院客殿及び庫裏（ほうじょういんきやくでんおよびくり）	伊都郡高野町大字高野山 156	木造平屋建、鉄板葺及び銅板葺	江戸後期／昭和 40 年（1965）頃改修	二
5	宝城院山門（ほうじょういんさんもん）	伊都郡高野町大字高野山字谷上 156	木造、銅板葺	江戸中期	二

登録有形文化財（建造物）とは

文化財登録制度は、近代を中心とする多くの様々な文化財を保護するため、平成 8 年の文化財保護法改正によって導入された。許可制を基本とする指定制度に対し、届出制による緩やかな保護制度で、登録により規制に強く縛られることはなく、建造物の多様な活用を行いやすいことが特徴である。原則として建設後 50 年を経過した建造物のうち、一定の評価※を得たものが対象となり、全国で既に 14,700 件を超える建造物が登録されている。

※登録基準

- （一）国土の歴史的景観に寄与しているもの
- （二）造形の規範となっているもの
- （三）再現することが容易でないもの

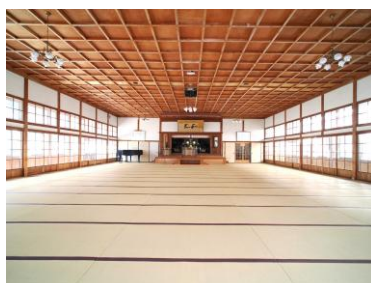
高野山北西端の谷上地区に所在する高野山高等学校は、明治19年(1886)、現在の金剛峯寺本坊西側にあたる興山寺跡に古義真言宗尋常中学林として創立し、大正14年(1925)に現在地へ移転した。敷地南端に校門を構え、校門の先に広がるグラウンド北側に校舎群が建つ。

講堂は校舎群の中央に位置し、木造平屋建、鉄板葺き(旧瓦型銅板葺き)で、昭和11年(1936)に建設された。施工は高野山大彦組が、設計監理は金剛峯寺金堂及び根本大塔の再建に携わった大浦徳太郎が担った。講堂内部は、外陣、外陣後方の内陣、両脇間からなり、四周には板敷きの回廊を巡らせる。外陣は計126畳の畳敷きで、内部には柱がなく、ガラスを多用した明るく開放的な大空間である。この講堂は当校において最も重要な場所とされ、毎日全校生徒が集い、厳かに朝礼が執り行われている。

校門は昭和12年(1937)に創立50周年記念事業の一環として建設された。東西一対の石貼りの門柱で、頂部に鉄板製の門灯を載せる。伝統ある学校の正門にふさわしい堂々とした姿で、歴史的景観の形成に寄与している。



講堂 外観



講堂 外陣



校門

宝城院は高野山真言宗の寺院で、高野山一山の信仰の中心をなす「壇上伽藍」の北西に位置し、壇上伽藍北側街路に接して参道を設ける。東西には塔頭寺院が並び高野山らしい都市景観の一面を創る。正面中央に山門を開き、山門を入った正面に客殿及び庫裏、東に本堂及び護摩堂が建つ。

本堂及び護摩堂の建設年代は不明であるが、形式手法から江戸時代後期の建設とみられる。木造平屋建、瓦型銅板葺きで西向きに建つ。本堂部の北側に護摩堂部を並べた複合仏堂で、高野山寺院の本堂建築らしい一つの典型を見せる。

客殿及び庫裏は江戸時代後期の建設で、東側の客殿部、西側の庫裏部よりなる。正面の東西に広縁を通し、中央に大玄関を構える。客殿部は大広間や上段の間を備えた上質な書院座敷で、上段の間は大床に帳台構を備えた格式高い部屋に造る。

山門は江戸時代中期に建設された一間一戸の四脚門、銅板葺き屋根である。均整のとれた伝統的な形式としながらも、各所に彫刻を施し華やかな意匠に造る。当院の正門としてたずむその形姿は、歴史的風致の色濃い高野山の街路景観の形成に寄与している。



本堂及び護摩堂



客殿及び庫裏



山門